

教養科目		社会科学部・保健医療福祉学部・ 心理学部・アニメーション文化学部			2022年度 カリキュラムマップ								
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)													
※学科のディプロマポリシーを記載													
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。										
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。										
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。										
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。										
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。										
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。										
信じられる力	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を發揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。										
◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)													
授業科目	◆は必修	単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
人間力育成科目	◆	きびこく学	1	1	春	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎
	◆	SDGs概論	1	1	春	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何が出来るか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎	
	◆	グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的な 이슈を題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎	
	◆	課題解決演習	2	1	秋	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎
キャリア教育科目	◆	キャリアデザインⅠ	2	1	春	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎
	◆	キャリアデザインⅡ	1	2	春	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎
	◆	キャリア実践Ⅰ	1	3	春	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動に必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎
		キャリア実践Ⅱ	1	3	春	「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	高校までに習得したコンピューターリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△					
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○		
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○		
外国語	◆ 英語基礎Ⅰ	2	1	春	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語Ⅰ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
	◆ 英語基礎Ⅱ	2	1	秋	「英語基礎Ⅰ」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語Ⅱ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
	◆ アクティブ英語Ⅰ	2	1	春	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅰ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
	アクティブ英語Ⅱ	2	1	秋	「アクティブ英語Ⅰ」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅱ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
	レベルアップ英語Ⅰ	2	2	春	海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
	レベルアップ英語Ⅱ	2	2	秋	「レベルアップ英語Ⅰ」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
	中国語と中国文化Ⅰ	2	1	春	中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎			◎		
中国語と中国文化Ⅱ	2	1	秋	「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎			◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	フランス語とフランス文化 I	2	1	春	フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	フランス語とフランス文化 II	2	1	秋	「フランス語 I」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 I	2	1	春	ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 II	2	1	秋	「ドイツ語 I」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	◇ 日本語 I A(文法)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(読解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(聴解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(文法)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
日本語(留学生専用科目)	◇ 日本語 I B(読解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(聴解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語 II A(文法)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
社会の理解	日本国憲法	2	1	春または秋	日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○				
	経済学	2	1	春または秋	私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎					
	社会学	2	1	春または秋	社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△			
	哲学	2	1	春または秋	哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△				
	心理学	2	1	春または秋	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△				△
	多様性の理解	2	1	春または秋	異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
基礎教育科目	人間形成	文章力の基礎	2	1	春または秋	大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○			
		美術の見方	2	1	春または秋	自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語るができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○			
		生涯スポーツ論	2	1	春または秋	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○			
		生涯スポーツ実習	1	1	春または秋	様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎			
自然科学		数的理解	2	1	春または秋	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△	
		化学	2	1	春または秋	基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎				
		生物学	2	1	春または秋	生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△		
		環境科学	2	1	春または秋	現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見の問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△	

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学部名	社会科学部	学科名	経営社会学科	2022年度 カリキュラムマップ
-----	-------	-----	--------	------------------

経営社会学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

本学科の課程を修め、学則に定める卒業に必要な単位を修得し、下記の3つの力に加えて豊かな人間性と持続可能な社会の実現に寄与できる力を身につけた人に対して学位を授与します。

自ら学ぶ力	DP1 知識・技能	組織経営の仕組みや社会の仕組みが理解できる能力を身につけている。経営学や社会学の分野における専門的思考能力と実行力を修得し、企業経営や社会における様々な課題についての確かな判断と課題の解決ができる。
	DP2 情報の活用	社会・経済に関する情報を経営学的視点から分析し、組織の経営に活かすことができる。また、社会学的視点から分析した人間社会についての知識を修得している。
	DP3 主体的な学びと論理的な思考	科学的な知識と論理的な思考力をバランスよく備え、社会人としての役割を理解し、常に学び続けながら自分自身を成長させようとする意欲と社会に貢献しようとする態度を持ち続けることができる。
生きぬく力	DP4 コミュニケーション・表現力	自分の考えを表現する力を有すると共に、多様な意見を尊重することができる聴く力を身につけ、社会で生き抜くためのコミュニケーション能力を身につけている。加えて、協調性と創造性を併せ持つ豊かな人間性と社会の変化に柔軟かつ的確に対応できる能力を身につけている。
	DP5 グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域課題の解決に取り組み、自らの意思で持続可能な経済社会の実現に向けて行動することができる。
	DP6 課題解決力	自ら課題を発見する力と知識を活用する知恵を身につけ、困難に立ち向かい、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。
信じる力	DP7 自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。
	DP8 行動力・実践力	自ら目標を設定し、目標を達成するために行動・実践することができる。

◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)

授業科目	◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
経営学総論		2	1	春	「経営学の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営学の基礎知識、企業に関する基礎知識を習得し、それを活用して経営学の用語の説明、応用ができるようにすることが目標である。また、経営学の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べられる力が養われる。企業経営の仕組みを調べて、それを整理し、まとめる力を涵養する。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。□	◎			○				○
社会学理論		2	3	秋	本講義は、人間の社会的行為や社会集団の構造や機能について学び、社会を読み解く力を身に付けることを目指す。まず身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念と社会的なものの方について解説する。それらを通して、人が他者から影響を受け、また他者に対しても影響を与える存在であることを理解するとともに、社会全体の仕組みについて学ぶ。講義では個別テーマを取り上げ、現代社会の動向を社会的にとらえていく。到達目標としては、人間関係や社会現象・問題を解説する「社会的想像力」を身につけることである。	◎	△	○			△	△	
現代社会の思想		2	3	春	テーマ: この講義では社会思想と社会学の歴史を概観する。イギリスの自由主義・功利主義、フランス啓蒙主義から始め、近代社会学理論の理論家たちの言説を講義する。到達目標: 単なる知識にとどまらずその応用に重点を置く。講義と論述式の小テストの繰り返しにより、学生たちが日常的な出来事を客観的かつ合理的に考えることができるように、かつ「正義とは何か」について適切な道徳的判断できるようにする。			○			◎	○	
政治学		2	1	春	大学で政治問題を学ぶ意義は、専門的な概念を用いた理論的な観点を通じて学ぶことにある。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。この講義を受講すれば、成熟した自由社会の民主政治における政治的出来事や理解、すなわちその背景と要因および相互関連性、そして現代社会の一市民としての教養と姿勢が修得できる。	○		◎	○		○		◎
日本社会論		2	2	秋	テーマ: 現代日本社会のさまざまな側面、具体的には、女性差別、女性と労働、男女共同参画社会、逸脱と犯罪、都市と農村、宗教と社会、死生観等に関する現状と問題を理解させ、その解決法を考える。 到達目標 多くの学生たちは、自分たちが生きている社会の仕組みや出来事について明確に理解していない。まず講義で教授する現代日本社会の様々な制度の現状と問題点を理解させる。次に、毎回講義のテーマに関する小テスト(記述式)を実施し、社会問題に関する考えをまとめ、適切な文章で表現する能力を高める。	◎				○	△		
日本経済論		2	2	秋	この講義は、日本経済に関する基礎知識とその実態的事実関係を分析し理解することに重点を置く。その日本経済の実態について、さまざまな立場や観点から客観的かつ具体的に取り上げて、多面的に捉えてゆく。この講義を受講すれば、日本経済の実態に関する基本的な見方や仕組みおよび軌跡などが理解できる。また、さまざまな経済現象をめぐる論理的思考と問題の発見力および解決力が修得できる。	◎		○			○		◎
国際関係論		2	2	春	この講義は、国際関係論という学問の基礎知識を理解することに重点を置く。国際関係という学問の発展過程に始まり、隣接分野との関連や、既存理論とその限界などを、最近の変動の事例に念頭を置きながら説明する。この講義を受講すれば、国際関係(と東アジア地域)という学問の基礎知識を習得することによって、国際社会の仕組みと多文化・異文化の理解及び総括・発表力が修得できる。	○	○		○	◎			

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
国際経済論		3	秋	経済学的に見れば、グローバル化は市場メカニズムの国際的な浸透・拡散プロセスである。この講義では、国際経済の基本的な知識を本格的に身に付けさせることを目指す。この講義を受講すれば、国際経済(とアジア経済)の基本的な考え方とその仕組みが理解でき、その応用力が向上する。そして、論理的思考能力と問題発見力、そして問題解決力が身に付けられる。	◎	○	○		◎			
情報と社会	2	2	秋	近年急速に発展している情報技術をテーマに、これらを利用する際に必要となる諸技術に関する知識の獲得を目標とする。特に、社会を革新するクラウド・コンピューティング、ブロックチェーン、ディープラーニングについての知識の獲得を目標としている。これらの知識の机上だけでは困難であり、できる限りPCを使って実際に動作させてみることによって、より知識を深化させることも目標としている。	◎	○	○	◎	○	◎	◎	○
ジャーナリズム論	2	3	秋	メディア環境が多様化する中、主に新聞を中心とする伝統的ジャーナリズムの役割について基礎的な理解を深める。達意の文章といわれる新聞記事の特徴を知り、文章を書くコツを学ぶ。就職活動のエントリーシートづくりや、社会人になって企画書を担当する際にも役立てられるようにする。		◎	△	○	○	○	○	△
広告原理	2	3	春	この講義では、広告＝マーケティング・コミュニケーションの変遷を振り返るとともに、経営戦略(事業戦略)・マーケティング戦略のあり方と、それに基づく広告＝マーケティング・コミュニケーションの企画制作の実作業について、事例を用いながら解説する。毎回実際のテレビコマーシャルや各種広告、動画コミュニケーションの実例を用いながら解説し、その理解を深める。到達目標は各種広告の企画立案が出来るようになることである。		○		○	○	○		△
コミュニケーション論	2	2	春	テーマ:コミュニケーションを科学する コミュニケーション力は現代社会で求められる最も重要な能力のひとつである。この講義ではコミュニケーションの主体・客体・過程・メディアを理解することにより、学生個人のコミュニケーション能力を向上させる。 到達目標:受講することによって、学生は人間社会や文化が言語的に構築されていることを理解できるようになり、コミュニケーションにおいて適切な言葉の選択、論理的思考ができるようになる。それは社会学的思考にとって、また社会生活においてもきわめて重要な資質となる。	○			◎				
対人関係論	2	3	春	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、個人と他者の相互作用の観点から、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に提起し、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。□		△	△	◎			○	△
ビジネス日本語Ⅰ	2	1	秋	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語力の基礎を養うことをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 (1)基本的なビジネスマナーについて理解することができる。 (2)ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 (3)ビジネスメールの書き方を理解し、実際に書くことができる。				○	◎		△	◎
ビジネス日本語Ⅱ	2	2	春	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語の運用力を養うことをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 (1)ビジネスマナーについて理解することができる。 (2)ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 (3)ビジネスメール・ビジネス文書・履歴書・自己紹介文の書き方を理解し、実際に書くことができる。				○	◎		△	◎
異文化理解(英会話Ⅰ)	2	1	春	国際コミュニケーションとしての英語能力は単なる言語ではなく、世界中の人々が同交流しているか、行動すべきか、どのような論争が起きているかを考察し、相違を乗り越えるためのツールであることを、実感し、その活用のスキルを磨くことを目指します。		○		◎	○		◎	
異文化理解(英会話Ⅱ)	2	1	秋	To use and build our English skills. Especially our vocabulary, fluency, and listening. By the end of the course students will be used to communicating on everyday issues and topics and overcoming difficulties and their own language limits.		○		◎	○		◎	
異文化理解(ハングルⅠ)	2	1	春	この講義では、韓国語の文字構成(子音・母音)と音素、音節の構成原理(子音と母音の組合せ)を基礎から身に付け、読み書き能力を体系的に学修する。また、韓国語と関連する社会、文化、歴史、慣習などの背景をも学修する。この科目を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会や文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくれる。		○		◎	○		◎	

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
異文化理解(ハングルⅡ)	2	1	秋	この講義では、異文化理解Ⅰで学修したハングル(子音、母音)、基礎文法、日常生活会話を中心に、各テーマに対応できる実践会話を修得する。また、各テーマに対応できる実践会話の修得とともに、最終的には中級レベルの会話修得を目標とする。 この科目を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーションスキルとともに、韓国の友達がつくれ、しかも韓国への一人旅もできる。		○		◎	○		◎		
インターンシップ	2	3	春	「実社会を経験し、有意義な大学生活を送る」をテーマとして、企業における実習を経験し、社会人としての基礎知識を身につけるとともに、その後の大学生活を有意義に送るためにはどうすればよいか、自分で考え、自分で行動できる能力を身につけることを到達目標とする。□	○		◎	○			○		
簿記Ⅰ	2	1	春	「簿記の全体像の理解」がテーマである。企業の経営状態を把握するためには重要な情報源のひとつが会計情報である。会計情報は日々の取引の管理と決算時の会計処理によって構築されている。これら会計処理を行うために必要なのが簿記の知識である。この授業では、簿記、とくに複式簿記の基本的な構造、手続きについて学ぶ。 この授業では簿記について知識がまったくなくても初学者が学びやすいレベルの入門講義であり、簿記の専門用語と基本的な事項を理解することが目標である。	◎	◎	○	△	○	○	○	○	
簿記Ⅱ	2	1	秋	「簿記の全体像の理解」がテーマである。簿記Ⅰで学んだ専門用語と基本的な事項を活かして実力アップ問題を解けることができるようにすることが目標である。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格を目指すことができるように専門用語と基礎知識を身につけさせる。(簿記Ⅰを履修するのが望ましい。) □		○		○			◎		
マーケティング入門	2	1	秋	「企業におけるマーケティング重要性の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてマーケティングの基礎知識を習得し、それに基づいてマーケティングの基本概念を説明できるようにすること、マーケティングの全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力を、教科書と資料を読み、調べることにより、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力を、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力を養うことも目標としている。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
ブランド戦略と知的財産	2	3	春	知的財産に関する基礎から最近のトピックまでを学ぶ。企業や大学等の知的財産戦略について、必要事項の概要を把握し、理解を深めることができる。主に、知的財産の基本、知的財産をめぐる法律、デジタルコンテンツと著作権、先端科学技術と知的財産、知的財産権の国際的イシュー、企業経営における知的財産戦略、知的財産戦略と会計、知的財産戦略と契約、知的財産に関する職業、について講義を行う。	△	○			○	◎		△	
経営管理論	2	2	春	「企業経営において経営管理の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営管理論の基礎知識を習得、経営管理論の重要性を認識し、経営管理論の概念を説明、応用できる力を身につけるとともに、経営管理論の全体像を理解することを目標とする。また、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書を読み、資料を読み、調べることにより、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。 □	○					◎		○	
経営戦略論	2	3	秋	この講義を通じて経営戦略論の基礎知識を習得し、それに基づいて経営戦略論の概念を説明できるようにすること、経営戦略論の全体像を理解することである。さらに、次のような能力が養成されることも目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力、教科書や資料を読み、調べることにより、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて得られる考える力とコミュニケーション能力。	◎	○	○	○	○	○	○	○	
人的資源管理論	2	2	秋	本講義は、人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も生きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指す。また、労働社会学の観点も取り入れ、人の働き方や意識の側面についてもあわせて理解する。 まず企業における「ヒト」の管理の問題について、歴史的な視点から基本的知識や理論、事例について解説する。そして、働き方の多様化が進む現代の日本企業についても、事例を用いながら多角的に捉えていく。到達目標としては、人的資源管理の基礎概念を習得し、労働の立場から組織や社会を理解できるようになることである。	◎	△	○		△	○		△	

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
ビジネス マネジメント コース	国際経営論	2	2	春	「グローバル市場においてグローバル企業の全体像を理解」がテーマである。到達目標は、日本、米国、韓国の事情、企業の経営特徴に関する知識を習得し、それぞれの国の経営について説明と応用ができるようにすることである。また、グローバル戦略論の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報力、計画力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力が養われる。 □		○			◎			○
	アジア企業論	2	3	秋	この講義のテーマは、「ケースメソッド学修法」を用いた「アジア企業」の研究である。主に、アジアのダイナミックな企業の姿、すなわちアジア企業における経営者や組織の在り方、企業を取り囲む市場構造、そして市場に適應する組織の進化などの問題を取り上げる。この講義を受講すれば、アジア企業に関する単なる知識や情報だけではなく、様々なビジネス現場の課題を解決するための実践的な力(人間行動の判断力・決断力)を養うことが出来る。	◎	○			◎	○		
	日本企業の経営	2	3	春	「日本企業の経営の特徴の理解」がテーマである。到達目標は、日本企業の経営特徴に関する知識を習得し、説明と応用ができるようにすることである。さらに、次のような能力が養成されることも目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力、教科書や資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて得られる考える力とコミュニケーション能力。	◎	○	○	○	◎	○	○	○
	ベンチャービジネスと経済	2	2	秋	「経済とベンチャービジネスの全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてベンチャー企業の重要性を理解するとともに、ベンチャー企業概念の説明ができ、ベンチャー企業の創業と経営ができる知識の習得を高めることにある。また、ベンチャー企業の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のノートをとることにより、聴く力、書く力、まとめる力がつく。また、教科書と資料を読み調べることによって、読む力、調べる力、考える力が身につけられるとともに、分析力、判断力を高める。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じてコミュニケーション能力を高める。□	◎					○		○
	リーダーシップと経営者	2	1	秋	経営者のリーダーシップを理解するのがテーマである。この科目の到達目標は多様な仕事内容や経営者の実像を把握できるようにすると共に将来のリーダーとして、どのように自分を育成していくかを理解すること。また、地域に愛着心を持つと共に地域産業の実態を知ってもらうことを目標とする。□		○				○	○	
	社会的責任経営	2	2	秋	「社会的責任経営の必要性和意義」をテーマとして、社会における諸課題と企業経営の関係性を学び、なぜ社会的責任経営が必要なのかということについて考える。社会課題と経済及び社会的責任経営の方法論を学ぶことにより、企業の社会的責任について考える。 ・企業活動が社会に及ぼす影響を理解し、説明することができる ・環境問題と企業活動の関係を説明することができる ・社会的責任の国際規格(ISO26000)を説明できる ・企業経営における経営倫理の重要性を理解し、説明することができる ・社会的責任経営の方法を提案できる能力が身につけている□	◎	○	△		○			
	SDGsと経営	2	2	春	「SDGsを指向した企業経営の実践方法の理解」をテーマとする。 ・企業がSDGsに取り組む必要性を理解する ・企業経営に関係するSDGsの本質を理解する ・SDGs時代の新しい経営モデルを理解する ・持続可能な社会の構築における企業の役割を理解し、実践できる能力を身につける□	◎	○	△		○			
	地域クラブマネジメント論	2	2	秋	スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につける。加えて、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントが行なえる方法及び能力が発揮できることを到達目標とする。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。			△	○	○	○	△	△
プログラミング入門	2	2	春	プログラミングにおける基本的な考え方、構造化プログラミングを習得してもらうことを目標としている。本講義ではscratch、Minecraft EE、Power Automate Desktopを使ってビジュアルプログラミングを行うことで、その後のテキストベースのプログラミングへの発展の足掛かりとなる技能を習得してもらう。また、これらのアプリケーション習得を目指す中で、日常的にPCに触れ、PCセントラルな考え方も習得してもらいたい。	◎	○	○	◎	○	◎	◎	○	

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
ソーシャルデザイン論	2	1	秋	テーマ:自分の周りの環境をよりよくする営み(ソーシャルデザイン)の面白さと難しさを体感する 到達目標:映画や事例をもとに、自分の周りの環境を変えたケースを学ぶことで知識を学び、ワークショップを通じて、自分の周りの環境をよりよくできることを目標とする。本講義の前半では、動画におけるケース(組織行動)を用いて反転学習を行います(事前に映画を見たり、あらすじを確認する)。動画に出てくるシーンを通じて、組織社会化などのテーマに基づいて、話し合いを進めていきます。 本講義の後半では、実際のケースや授業のなかでのルール改正に基づく変容を分析し、追体験してもらいます。	○	○	◎	○	○	○	◎	○
SDGsで考える社会	2	2	秋	・「SDGsの達成に向けた施策の理解」をテーマとする。 ・SDGsの背景について理解する ・SDGsが目指す社会について理解する ・持続可能な社会の構築に向けて施策を策定する能力を身につける”口		○		◎	◎	△		
地域づくり論	2	2	春	テーマ:生物学視点から、地域づくりのルーツを「巣づくり」とみなし、先史からいままでの地域づくりの歴史をテーマとする。 到達目標:地域づくりの歴史から地域形成過程を学び、地域の文化や歴史などからみた地域づくりに必要な知識やスキルを身につけることができることを目標とする。 ・講師が実際に取り組んできた地域づくりの事例を使って、地域づくりに必要な知識やスキルを身につける。 ・個人ワークやグループワークを通して、学習に取り組む。その過程および結果を発表・共有・検討(ディスカッション)し、必要な技能を身につける。	◎	○	○	○	◎	○	○	○
福祉と地域づくり	2	2	秋	テーマ:福祉の視点から、地域におけるまちづくりの現状と課題について分析する。 到達目標:①福祉、まちづくりに関する基礎的な知識を修得する。②福祉の視点に基づいたまちづくりの実践例を、事例を通じて理解する。③SDGsの課題達成や、地域共生社会の実現にとって必要な要素を、受講生が分析出来るようになる。④受講生が、自らが生活する地域のまちづくりに関する事例やそこでの課題を検証する作業を通じて、能動的に学ぶ姿勢を身につける。	○	△	◎	◎	◎	○	○	○
地域マネジメント	2	3	は	テーマ:人口減少・少子高齢化に苦しむ、小さい自治体の取り組みをテーマとする。到達目標:地域をめぐる諸問題を解決してきた先進事例をとりあげて分析を行う。分析を通じて、自然及び社会資本などを活用した地域主体の体制づくりについて学び、新たな提案ができることを目標とする。・地方をめぐる諸問題を多角的(特にマネジメントに注目し)に取り上げ、問題点の把握と現状分析を行う。 本授業では、全国の事例をもとにしたケーススタディを行い、現状の洗い出しと課題の認識を共有しながら、どのように課題解決を提案していけばいいのか、そのスキルを身につけます。	○	○	○	○	◎	◎	○	○
社会起業論	2	3	秋	テーマ:社会課題を事業化することで解決に導いていく社会起業について学び、実際にアイデアを出してやってみる。到達目標:社会課題をビジネスで解決する社会起業についての理論、歴史を学ぶ。次に、国内外の様々なケースを学び、最後に学内外での課題解決策を実際に行って、社会起業について体感することを目標とする。	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎
ファシリテーション入門	2	2	春	「集団による課題解決など、知的創造活動を支援するファシリテーション技能の習得と活用」をテーマとし、ファシリテーションの理論と技能を学ぶ。 ・合意形成におけるファシリテーションの重要性を理解している ・ファシリテーション技能を身につけ、実践で活用できる ・ワークショップのファシリテーターとして話し合いを支援できる。口				◎		○	○	◎
ワークショップデザイン	2	3	春	「種々のワークショップ方法を活用した地域づくりの方法の理解」をテーマとし、地域づくりに必要なワークショップ技能を学んでいく。 地域課題を解決し地域活性化を行うためには、対話の場や計画づくりの場が必要である。そのための手法として参加型の話し合いの場(ワークショップ)がある。様々なワークショップの手法を学び、地域づくりことを到達目標とする。口				◎		○	○	◎
ワークショップ実践	2	3	春	テーマ:ワークショップのデザインとファシリテーションのスキルとマインドを実践的に学ぶ。さらに、ワークショップを企画し、自らファシリテーターとして場づくりを行うことを目指す。 到達目標: ①ワークショップの意味と意義について理解する。 ②ファシリテーションの概念と方法を理解する。 ③ファシリテーターのスキルセットとマインドセットを学ぶ。 ④自らワークショップをデザインし、ファシリテーションを行う力を身につける。	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎
法学入門	2	1	秋	本講義(法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識)を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎

ソーシャルデザインコース

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
公共政策入門	2	3	春	テーマ:地方自治体が取り組む公共政策の考えやケースを学び、実際に公共政策を作ってみる。 到達目標:公共政策の考え方について学ぶ。次に、地方自治体の成功と失敗のケースを学び、改良ポイントはどこのか学ぶ。主なケースとしては、これらの学びをもとに、実際に自分なりの公共政策を作ってみる。	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○
新しい公務員論	2	3	春	テーマ:起業型公務員と呼ばれる新しい公務員像を学ぶ。到達目標:実際に地域に飛び込み活躍する「起業型公務員」という新しい公務員像を学ぶ。新しい公務員として地域で活躍されている全国の公務員のゲストをお招きし、キャリアパスとして学ぶ。これらの学びをもとに、それぞれの地元でどのような公務員が求められているか、調査し、発表する。	○	◎	○	○	◎	○	○	○
時事問題	2	3	春	テーマ:現代社会を知る。今、人類は歴史的な大変革の時代を迎えている。今後人類はIT社会(Society4.0)はわずか30年前で終わり、現実とサイバー空間が融合する社会(Society5.0)を生きることになる。このような社会で政治・経済・法律・教育・文化がどのような状況にあるかを知る。到達目標:時事的な現代社会の状況を理解する。少なくとも新聞・ニュースの話題が理解できるようになることを目標とする。		◎	○		○			
地域分析入門	2	2	春	テーマ:地域分析の基礎的知識および、データを活用した分析力を習得する。 到達目標(4つ):①社会的な地域・コミュニティの見方や考え方を理解する。②地域の現状ならびに生活課題について各種事例から学ぶ。③オープンデータを活用した地域分析の基礎的手法を習得する。④複数の地域分析ツール(RESAS、統合型GIS、jSTAT MAP、ほかWeb-GIS等)を活用し、①②③を統合した学習課題に取り組み、その成果をまとめる。	○	◎	◎	○	○	○	○	○
社会調査法Ⅰ	2	1	春	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目である。具体的に、社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、社会調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることが到達目標である。	◎	◎	○	○	△	△	△	△
社会調査法Ⅱ	2	1	秋	テーマ:社会調査の結果を分析できるようになるための基本的な方法を習得する。 到達目標(4つ):①公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を身につける。②単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データや、グラフの読み方が身につく。③さまざまな質的データの読み方、基本的なまとめ方を身につける。④相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念が理解できるようになる。	○	◎	◎	○	△	○	△	△
教育デザイン論	2	1	春	教育デザイン論における学びのテーマは、心理学や教育学の学問的知見や教育実践に基づいて、保育・学校教育機能の理解を深めるとともに、保育・教育に関わる職員の役割と仕事内容について理解できることである。到達目標としては、保育・教育現場で求められる教材開発やIT、ICTなどの先端技術を活用した学習カリキュラム、学習支援サービスなどの教育システムをデザインするための基礎的知識を修得することである。□	△	△	◎	○		△	○	○
ICT教育デザイン	2	2	春	今日のSociety5.0社会の中で、ICT(情報通信技術)の利用・活用が促進される状況にあって、学校教育における情報教育では、児童生徒が自ら考え、主体的に判断・表現・行動するなど、児童生徒が主体的に学ぶための「情報活用能力」の育成が求められる。そこで、本講における学びのテーマは、児童生徒の情報活用能力の育成のためのICT活用の意義について理解することである。到達目標としては、課題の提示や知識の確認、疑似体験(シミュレーション)、表現活動等の様々な学校教育場面において、ICTを効果的に活用する方法を修得することである。□		△	○	◎		○	○	○
思考フレームワーク入門	2	3	秋	テーマ:フレームワーク(枠組み)を用いて、ビジネスで課題解決や戦略立案に活用できるようになる。到達目標:考えるべきポイントや思考の流れをパターン化したフレームワークを複数種類学ぶ。学んだフレームワークをもとに、様々なケースを分析し、使うことができるようになる。概要としては、身近な分類法である4象限やマトリックスといった、数学でも習ってきた整理方法を復習し、次に、SWOTなどの「分析ツール」と、KJ法などの無意識の発想を取り出し、整理する「発想ツール」としての2つのフレームワークに大別して、実際のケースなどを使って、分析できるようになる。	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○
教育と社会	2	2	秋	本講義は、家庭、学校そして地域社会のなかで生起する「社会現象としての教育」を、教育社会学の理論をもとに考察することをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 ① 日本の社会と教育の歴史の変遷を理解し、多角的な角度から批判的に考察する力を身につけることができる。 ② 家庭、学校、地域社会で営まれている教育、さらには、子どもの生活における現象を経済・社会・文化などと関連付け、その構造を理解することができる。 ③ 近年の教育政策の動向を理解し、未来の教育と社会の在り方について自分の考えを論理的に説明することができる。	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
日本の教育システム	2	3	春	本講義は、日本および諸外国の教育制度を知り、日本の教育改革の動向や教育制度の課題について理解を深めることをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 ①日本の教育制度が形成されてきた経緯、教育制度に関する政策・法・行政の意義と構造、近年の教育改革の動向について理解する。 ②教育法規や制度と学校における実践的な諸課題の関連について理解を深めることができる。 ③よりよい教育を行うための教育制度の在り方について自分の考えを論理的に説明することができる。	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○
経営倫理と教育	2	3	春	「企業経営における経営倫理の位置づけの理解」をテーマとし、経営倫理の観点から企業の存在意義と企業経営のあり方を学んでいく。倫理的価値観を持つ経営理念の必要性、従業員や消費者などのステークホルターに対する企業側の倫理的な責任、企業の持続性に対する責任などを問う経営倫理を、企業の社会的責任と関連づけながら学んでいく。持続可能な社会の構築における企業の役割を理解し、実践できる能力を身につけることを到達目標とする。□	△	◎	△	○	○	◎		
社会福祉	2	1	春	少子高齢化社会の中で、保育者は子どもの保育や子ども家庭支援の役割を担っている。それらを果たすために必要な社会福祉の知識や技術について理解することをテーマとする。具体的には社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の範囲や法体系、相談援助の方法(ソーシャルワークの技術や方法)、利用者保護に関わる仕組み、社会福祉の動向と課題などについて理解することを到達目標とする。	△		△	△	△	◎	○	◎
保育の計画と評価	2	3	春	学生は、保育課程の編成に伴う基本的な理論と技法を理解することができる。保育における計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造とそれぞれの役割とその関係性について理解することができる。子どもにとって大切な遊びを中心とした保育カリキュラムについて、理論的な理解と子どもの発達を見通した保育のあり方、長期・短期の指導計画の意味とその実質的内容など、保育環境の構成にも考慮することで理解することができる。□	◎	◎				○		
子ども家庭福祉	2	1	秋	子ども家庭福祉の概要を理解し、これからの課題や展望について学ぶことをテーマとする。具体的には、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について、子ども家庭福祉の人権擁護について、子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解することを到達目標とする。	△		△	△	△	◎	○	◎
子ども家庭支援論	2	3	春	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			◎	◎	○	◎	◎	○
保育の心理学 I	2	2	春	発達とは人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。到達目標は、子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解しようとする心構えを形成することである。	◎	◎	○			○	○	
社会的養護 I	2	3	春	「児童の社会的養護」と「児童の自立支援」をテーマとして、施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことを目標とするが、児童養護は児童本来の家庭における養護と児童福祉施設や機関などによる社会的養護の連携協力によって初めて全うされる。このことを踏まえて、社会的養護の中でも特に児童福祉施設による児童養護の考え方やその現状を詳細に論じると共に、養護上の基本原理とその実践について考察する。受講により社会的養護の現状と課題について理解できる。□		△	△	△		△	○	△
保育原理 I	2	1	春	学生は、保育に携わる上で基礎概念となる保育の原理を理解することができると共に、より柔軟な保育理念を身に付けるための考察力を培うことができる。保育における歴史や思想を知ることで、現在の保育に至る流れをより深く理解することができる。さらに、乳幼児期の子どもにおける発達を考察し、保育内容を考慮した上での計画の意義・重要性を知ることができる。保育者とは？この疑問に対して、自らの答えを見つけ出すことができる。□	◎	◎	○	△				
保育原理 II	2	1	春	現在保育現場において求められているものは多様化し、細分化されてきている。当然、保育者自身に求められるものも変わってきている。学生は、今保育者として求められているものとは何か？子どもたちにとっての保育者とは？保護者にとっての保育者とは？そのような疑問に対する答えを、役割と論理・制度的位置づけ・専門性などの面から自ら見つけ出すことのできる考察力と保育者観を身につけることができる。□	◎	◎	○	△		○		◎
教育原論(初等教育)	2	2	秋	教育原論は、教育の基本的概念や教育の理念などについて学ぶもので、教職科目の中でもとりわけ重要な位置を占めている。この授業では到達目標を次のように設定している。 (1)教育の基本的概念を身に付けるとともに、子ども、教員、家庭、学校等教育を成り立たせる諸要因と相互の関係を理解する。 (2)家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開等教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 (3)家庭や子ども、学校や学習などに関わる教育の思想や代表的な教育家の思想を理解する。	◎	◎	△	△			○	

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
教育心理学(初等教育)	2	2	春	到達目標としては、学生が幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解でき、1. 授業場面をはじめとする学校生活において、生徒個人・生徒集団・生徒と教師との関係における心理学的知識を理解し、教育的課題の解決に生かせるようになる。2. 生徒が学校で示す様々な心理学的問題を理解し、その対応に生かせるようになる。□			◎	○		○	○	○	
社会調査法Ⅲ	2	2	春	本科目の到達目標は、社会調査における、①「調査設計」とその②「実施方法」を習得することである。 具体的には、社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法等)、調査データの整理(コーディング、データクリーニング等)の理解を通して調査設計と実施方法を習得する。 なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのB科目に該当する。	○	◎	◎	○	△	○	△		
社会調査統計学Ⅰ	2	2	春	本講義は、社会調査における計量的分析に必要な統計学の知識・スキルの習得を目指す。 まず全数調査を基本とする記述統計(基本統計量や相関、標準偏差、正規分布等)について理解を深める。次に標本調査をもとに推測統計の基礎的部分について学ぶ。推測統計については、確率論の基礎、確率分布、推定・検定(平均の差の検定、関連性の検定、相関係数の検定を含む)などである。 到達目標としては、推測統計の原理を理解し、自ら分析や検定・推定ができるようになることである。	○	○	◎		△	○		△	
社会調査統計学Ⅱ	2	2	秋	本講義は、量的データの分析で用いられる多変量解析の手法について、知識・スキルの習得を目指す。 まず種々の解析法に関してその基本的な考え方と主要な分析手法について学ぶ。分散分析や重回帰分析を基本としながら、他の計量モデルとして主成分分析、判別分析、因子分析などをとりあげる。これらの理解と実践を通してデータ解析の方法を身に付ける。 到達目標としては、多変量解析法について、基本的な考え方と分析方法について理解することである。	○	◎	◎		△	○		△	
質的調査法	2	2	秋	社会調査の手法の中でも特に、質的データの収集や分析方法について理解を深め、調査技術を習得する実践的な講義である。質的データの収集の方法として、インタビュー法、フィールドワーク、参与観察法等を学ぶ。また、ライフヒストリー分析や会話分析などの分析方法を学ぶことを通じ、質的調査の技術の習得を目指す。また、質的調査の技術の習得と同時に、複数の質的調査を用いた研究例の紹介や解説についても授業中に行うため、質的調査の研究法についての理解を深めることができる。なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムの「F科目」に該当する。	○	○	◎	◎	△	○	△		
社会調査実習	4	3	通年	本実習は、社会調査に関する基礎的な知識を習得したことを前提とし、実際に調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程について経験する。データを用いた論文・書籍を理解するための知識とともに、調査の実施と分析を行うスキルを身につけることを目指す。 方法としては、各自の関心をもとに仮説をたて、その仮説にしたがって調査票を作成し質問紙調査を実施する。そこから得られたデータについて集計・統計分析を行い、結果を報告書にまとめる。 到達目標としては、社会調査の実践能力を高め、報告書を作成することである。	◎	◎	◎	○	△	◎	○	◎	
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	3	春	テーマは、ソーシャルワークの親方や援助方法の基本を知ることである。到達目標は次の通りである。1. 学生が、社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの援助対象や援助観、援助方法などの基本的な知識を得ることができる。2. ソーシャルワーカーとしての望ましい価値、知識、技術を身につけることができる。				△	◎	△	◎	△	◎
相談援助の理論と方法Ⅱ	2	3	秋	テーマは、ソーシャルワークの親方や援助方法の基本を知ることである。学生が、1. 社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの援助対象や援助観、援助方法などの基本的な知識を得ることができる。2. ソーシャルワーカーとしての望ましい価値、知識、技術を身につけることを到達目標とする。				△	◎	△	◎	△	◎
心理演習Ⅰ(面接)	1	3	秋	カウンセリングについての基礎的な知識とスキルを学ぶことがこの授業のテーマである。到達目標は、カウンセリングの諸理論、技法、アセスメントなど、カウンセリングを行う際に必要な知識とスキルの基礎を習得できることである。	◎	◎	◎	◎	○	◎			
健康・医療心理学	2	2	秋	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントの知識を習得することである。	◎	◎		○		○	△		
子ども家庭支援の心理学	2	3	秋	生涯発達の心理学理論を中心に、発達のプロセスの概要を理解するとともに、初期経験の重要性、発達課題などについて学習する。それらとの関連の中で、家族関係、子育て家庭の課題、子どもの心の健康について学ぶ。	◎	○		○		○			

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
保育の心理学Ⅱ	1	2	秋	子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通じた学びの課程、保育における発達援助の3つの観点から保育の心理学の理解を深めるというのがこの演習のテーマであり、単なる座学としての知識ではなく、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになることが到達目標である。	△	○	○	○	○	◎	○	◎	
臨床心理学概論	2	3	秋	医療の現場のみならず、学校や福祉施設などの様々な相談援助場面においても、臨床心理学に関する様々な知見は必要なものとなってきている。そこで本講では臨床心理学の基礎理論、パーソナリティ論、各種心理療法の基礎について論じ、臨床心理学の援助アプローチと医学的治療アプローチ、社会福祉の援助アプローチの相違について考察する。本講を受講することにより、保育・教育・社会福祉の実践現場における発達相談や適応相談に必要な臨床心理学の基礎知識を習得し、対人援助実践力の向上に資することができる。□			○	○		○	○	△	
保育原理Ⅲ	2	2	春	保育所における保育の基盤となる保育所保育指針は、とても重要であり十分に理解されるべきものである。この講義を通して、学生は保育所保育指針における全5章を深く理解し、保育制度の現状を学ぶことができる。さらに、現代の保育課題に対しての知識を高めることができる。□	◎	◎	△	△	△	△	○	○	
子どもの保健	2	2	春	子どもの保健は日常生活を実践の場とし、子どもの心と身体の健康の保持・増進を目的としている。子どもの保健では、常に発達する存在である子どもの健康の保持および増進につとめられるよう、生理的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や子どもの病気を理解し、子どもの健康を守るための知識を習得することを目標とする。	◎	◎	○		△				
子どもの健康と安全	1	2	春	少子化、核家族化などの社会現象に伴い、子どもがおかれている環境は変化している中で、心と身体の問題、障害のある子どもへの対応、危機管理、健康づくりと地域保健活動などの理解を深め、子どもの健康問題の解決法を習得することを目標とする。	◎	◎	○			○		○	
子どもの食と栄養Ⅰ	1	3	春	心身の成長、発達が急速に進む小児期の食生活や栄養は、豊かな人間性を育て、生涯を通じた健康、特に生活習慣病予防ということにもつながっていくものである。しかし、私たちを取り巻く生活環境、社会環境は複雑であり、いろいろな問題が山積されている。そのような中で、将来保育士を希望する人たちは、食生活や栄養、食品に関する基礎知識を身につけ、食と栄養の基本をしっかり学び、先ず、自分自身の健康管理に留意しておく必要がある。	◎	◎	○		△	○	△		
子どもの食と栄養Ⅱ	1	3	秋	① 各時期の栄養・食生活の特徴を知る。 ② 生活習慣病予防の面からも、食生活が家族の健康や生活、地域と密接な関係があることを理解する。 ③ 専門職である保育士が子ども達にはもとより、保護者に対しても支援ができるように学ぶ。	◎	◎	○	○		○		△	
乳児保育Ⅰ	2	2	春	0歳児保育、1歳児保育を中心として学ぶ。発達の未熟性を特性とするこの時期の保育は、乳幼児突然死症候群を含めて、健康、安全面に十分配慮し、保護者との協力関係の下に、慎重に保育を行うことが大切であるが、そのことの意義について学ぶことができる。	◎	◎				○		△	
乳児保育Ⅱ	1	2	秋	1歳児、2歳児を中心として、子どもの発達理解、子どもや保護者への援助のあり方について学び、子どもの命の尊さ、命を育むことの意義について学ぶことができる。また、温かな人間性と諸科学の理論に裏付けられた保育実践力を身に付けることができる。	◎	◎	△			○		○	
乳児保育Ⅲ	1	3	春	集団生活の場における乳児保育の問題点および保育内容について学ぶとともに、月齢による発達の理解と保育実践について、日案や月案による実践計画ならびに記録方法などについて正しく身に付けることができる。	◎	◎	○	△		○		○	
障害児保育Ⅰ	1	2	春	それぞれの「障害」についての基礎的知識をする。また、現在の保育現場における、現状と課題について考える。 子ども、家族の持つ困り感に気づき、保育士としてどのような支援が求められるか、実際に障害のある子ども、またその家族と関わりを持ちながら、それぞれの障害特性を理解した上で具体的支援方法を習得する。	◎	◎							○

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
障害児保育Ⅱ	1	2	秋	最近では、さまざまな障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所において地域の子どもたちと一緒に生活をする「統合保育」が進んでいる。地域の中でともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善につながることは明らかであり、その支援が「保育」の任務でもある。また、障害を持つ子どもたちとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、「障害児保育」(2年次後期開講科目)で学んだ基礎知識をもとに、次の3項目を中心に深める。 第一に、障害児保育の入り口として、障害の特徴、障害児保育の概念について理解してうえで、「統合保育」について考える。 第二に、障害別の保育方法について理解してうえで、保育所・幼稚園における保育計画について実践的に学ぶ。 第三に、児童相談所や発達支援センターなど障害児保育に関する関係機関との連携、障害児を持つ保護者に対して保育者としての支援のあり方について考える。	◎	◎	○			◎		○
障害児保育Ⅲ	1	3	春	最近では、さまざまな障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所において地域の子どもたちと一緒に生活をする「統合保育」が進んでいる。地域の中でともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善につながることは明らかであり、その支援が「保育」の任務でもある。また、障害を持つ子どもたちとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、「障害児保育」(2年次後期開講科目)で学んだ基礎知識をもとに、次の3項目を中心に深める。 第一に、障害児保育の入り口として、障害の特徴、障害児保育の概念について理解してうえで、「統合保育」について考える。 第二に、障害別の保育方法について理解してうえで、保育所・幼稚園における保育計画について実践的に学ぶ。 第三に、児童相談所や発達支援センターなど障害児保育に関する関係機関との連携、障害児を持つ保護者に対して保育者としての支援のあり方について考える。	○	◎	○			○		◎
社会的養護Ⅱ	1	3	秋	「各種児童福祉施設における子どもたちの日常生活の理解」と「施設児童の心身の成長発達援助」の理解をテーマとするが、養護内容の実践の場である児童福祉施設のうち、本講では特に居住型施設を中心に、児童養護の体系や各種児童福祉施設の概要、施設生活の内容、各種専門職の役割等について、受講生自らの研究発表を通じて学ぶ。また、アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケアの各段階での養護内容の実践について事例を通じて学ぶ。□			○	△		△	○	
保育内容指導(健康)	1	3	春	●生涯にわたる心身の健康の基礎を培う重要な幼児期における、運動、生活習慣は、体格、運動能力の発達のもとより、心身の病気に対する抵抗力などの防衛体力、さらには、安全という視点からも大きな影響を及ぼす。こうした健康という保育内容の歴史的・概括的枠組みから、その具体的留意点までを理解することを目的とする。 ●保育現場での運動指導の計画策定、指導案の作成、指導技術の習得を到達目標とする。	◎	◎				○		○
保育内容指導(人間関係)	1	3	秋	乳幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活できるようになるために、保育に求められることは何かを考察し自己課題をもつことができる。そのために保育内容の領域「人間関係」について理解すると共に、乳児との応答関係が形成されるための、保育者の関わり方や環境作りの重要性について理解することができる。そして乳幼児が人と関わる力を身につけていくための現代的課題を考察することができるようになる。			◎	◎		◎	△	○
保育内容指導(環境)	1	2	秋	幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことができる保育者を目指して、保育所保育指針に示す「保育内容・領域(環境)」について理解を深めることができる。そして、幼児の発達に即して、主体的・対話的な生活・遊びの中で学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。 □		○	○	◎	○	◎	○	◎
保育内容指導(言葉)	1	2	秋	テーマ:「子どもの言葉の獲得と発達および保育者の援助」について理解する。 到達目標:①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「言葉」のねらいおよび内容について把握する。 ②人間としての発達の視点から幅広く言葉の問題をとらえ、子どもの言葉の獲得と発達について理解する。 ③子どもの言葉の獲得における保育者の援助・指導のあり方と、言葉の発達に即した環境構成のあり方について理解を深める。	◎	◎	○		△			△
保育内容指導(表現)	1	2	秋	「子どもの表現活動の理解および造形・身体表現の技法と技術」をテーマとする。前半の身体表現では、音楽を用いた表現の方法を学習した上で、実際に作品作りを行い表現力を養う。後半の造形表現では、環境づくりの課題として「子ども参加の空間デザイン」をテーマに壁面空間のグループ製作を通して保育内容の指導に必要な造形表現力を養う。	◎	◎	◎	○		○		○
保育内容指導(保育内容総論)	1	3	秋	学生は、保育内容を総合的に学び、保育現場において展開される園生活や保育者の位置づけを考えることができる。乳幼児期における1年の違いをしっかりと理解し、発達基準として子どもの成長を理解することができる。また、実際に指導計画を立案し、グループディスカッションをすることで指導案の重要性を認識することができる。□	◎	○	○	○		○	◎	○

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
基礎技能(音楽A)	1	2	秋	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する技術の習得」であるが、指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そこで本講座では、そのためにはどのような音楽的な知識・技能が必要かを理解し、それら(ソルフェージュ力、歌唱力、器楽演奏の基礎力、楽典の知識)の習得を目標とする。	◎	◎	○	◎		△	○	○
基礎技能(音楽B)	1	3	春	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する技術の習得」であるが、指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そこで本講座では、音楽Aで習得したソルフェージュ力、歌唱力、器楽演奏の基礎力、楽典の知識をベースに、動きのリズムのためのピアノ曲演奏、子どもの歌が素歌で歌える、子どもの歌が必要に応じて弾き歌いができるなど、音楽教材のレパートリーの幅を広げることを目標とする。	◎	◎	○	◎		△	○	○
基礎技能(図画工作)	1	2	春	「図画工作に関する基礎的な技能の習得」がテーマであり、保育の現場において十分な実践指導ができる能力の養成が目標である。	○	○	○			◎		◎
基礎技能(小児体育)	1	3	秋	児童の体力・運動能力は総じて低下の傾向を示しているといわれている。こうした現状の原因として、幼児期・児童期における運動遊びの減少が指摘されている。そこで、体力・運動能力の基礎を培う幼児期・児童期の運動の質的向上をテーマとし、子どもの発達段階に即した運動遊びを理解することを目的とする。	○	○	○			◎		◎
基礎技能Ⅱ(音楽)	1	3	秋	テーマは「保育・教育実践における音楽指導力の習得」である。本講座では、音楽A・Bで習得した音楽の基礎技能・知識とその応用能力の習得過程で発見したより専門的な課題、特に、器楽指導及び合奏、身体表現やオペレッタ創作、特別支援に有効な音楽療育的な音楽活動ができるようになることを目標とする。	◎	◎	○	◎		△	○	○
基礎技能Ⅱ(図画工作)	1	2	秋	「図画工作に関する基礎的な技能の習得」をテーマとして、造形指導に関するより幅の広い知識と造形技能の習得を図り、より高い実践指導力を身につける。	○	○	○			◎		◎
保育実習指導ⅠA	1	3	春	学生は、保育士養成過程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことができる。□	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
保育実習指導ⅠB	1	3	秋	保育士養成課程において習得した教科の知識・技能を基礎とし、これらを児童福祉施設等(保育所以外)で実践する能力を身につけることをテーマとする。到達目標として、①保育実習の意義・目的を理解する。②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする、③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することがあげられる。				△	◎	△	◎	○
保育実習指導Ⅱ	1	3	春	保育実習指導ⅠAを基礎として、自身の学びがどのように発展し、実習へと展開されるべきなのかを理解することができる。具体的には、①各自の実習目的・課題を明確にする中で、実習で活用できる技術の習得と習得した技術の活用方法について理解する。②実習記録や指導案の意義を理解し、自分の考えをそこに表現することができる。③保育者として求められる技術向上を図りながら、そこに込められる保育の心や論理の構築を図ることができる。④実習後は、実習総括・評価を行い、新たな学修目標を明確にすることができる。□		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
保育実習指導Ⅲ	1	4	春	保育実習Ⅰの内容を深め、総仕上げの実習をするための準備をすることをテーマとする。到達目標として、①保育実習の意義と目標を理解し、保育について総合的に理解する、②これまでの実習や既習の教科目の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する、③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえたの改善について、実践や事例を通して理解することなどがあげられる。				△	◎	△	◎	○
保育実習ⅠA	2	3	春	学生は、保育現場において、今までに得た知識や技術が、いかに子ども達へと実践され、機能しているかを体験することができる。また、実際に子どもと触れ合うことにより、より深く子どもの姿を理解し、子どもと保育士との関わりを様々な視点から考察することができる。学生は、保育所における実際の保育士の役割を正しく理解し、保育所・家庭・地域社会の三角形における保育士の役割を考察することができる。□		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
保育実習ⅠB	2	3	秋	児童福祉施設等の利用児・者を理解し、施設保育士の役割や業務内容を理解することをテーマとする。到達目標として以下があげられる。①児童福祉施設の役割や機能を理解する。②観察や関わりを通じて、利用児・者への理解を深める。③既習の教科目の内容を踏まえ、利用児・者や家族(家庭)への支援について理解する。④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			△	◎	△	◎	○	◎
保育実習Ⅱ	2	3	春	学生は、保育現場を実際に触れ、実践において必要な日々の心構え、子どもと関わる上で重要となる保育理論、そして体調管理の重要性を理解することができる。さらに、地域社会や子どもひとりひとりの持つ家庭環境の違いを考慮し、保育実践におけるニーズに対しての理解力・対応力について考えることができる。学生は、毎日の保育場面から、自己の持つ知識・経験・技術における課題を明確にし、自己解決力を身に付けることができる。 □	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
保育実習Ⅲ	2	4	春	保育実習Ⅰの内容を深め、総仕上げの実習をすることをテーマとする。到達目標として、①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する、②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得することがあげられる。			△	◎	△	◎	○	◎
子育て支援	1	3	秋	子育て、子育て支援の基本姿勢や実践方法を養うことをテーマとし、以下を到達目標とする。 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			△	◎	△	◎	○	◎
保育実践演習Ⅰ	1	3	春	知識と技術を実践へ繋げる。保育に関する課題について考察するとともに、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。また、これまでの自らの学びを振り返り、保育士としての必要な知識・技能を確認し、自らの課題を見出す。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
保育実践演習Ⅱ	1	3	秋	保育所実習での経験を振り返り、知識と技術の融合について捉え直し、考察する。保育士として勤務することについて具体的にイメージし、自分なりに将来の展望を描く。保育者としての資質向上を図り、保育職に従事するという自覚と意欲を高める。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
◆ 基礎演習Ⅰ	2	1	春	テーマは、大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得することである。また、これをふまえて、学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養うことも目指す。到達目標は主に3つである。①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎
◆ 基礎演習Ⅱ	2	1	秋	テーマは、大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得することである。また、これをふまえて、学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養うことも目指す。到達目標は主に3つである。①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎
◆ 基礎演習Ⅲ	2	2	春	テーマは、大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得することである。また、これをふまえて、学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養うことも目指す。到達目標は主に3つである。①大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎
◆ 基礎演習Ⅳ	2	2	秋	テーマは、大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得することである。また、これをふまえて、学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養うことも目指す。到達目標は主に3つである。①大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎
◆ 演習Ⅰ	2	3	春	「課題探究能力・主体的判断能力の育成」をテーマとして、自主的学習のための基礎知識を身につけ、自らが課題を見つけ出す能力を身につけることを到達目標とする。□	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎

総合科目

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
◆ 演習Ⅱ	2	3	秋	「知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連の中で理解する」をテーマとして、討論やグループワークを中心とした演習を行い、学科の専門を理解する能力を身につけることを到達目標とする。	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎
◆ 演習Ⅲ	2	4	春	「研究の基礎」をテーマとして、研究に必要な基礎的知識を学び、専門の内容が理解でき、利用できるようになることを到達目標とする。□	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎
◆ 演習Ⅳ	2	4	秋	「実践力」をテーマとして、グループでのフィールドワークやワークショップの手法を利用して、自分で研究が遂行できる能力を身につけること到達目標とする。□	△	△	◎	◎	△	◎	◎	◎
◆ 卒業研究	4	4	通年	卒業論文の完成と発表」をテーマとして、演習等で得た能力と、知識を活用して、卒業論文を完成させ、発表会においてプレゼンテーションを行うことによって、本学科卒業生としての能力を身につけることを到達目標とする。□	△	△	◎	○	○	◎	○	○